

マダム奮戦記  
(1974年度採集の記録)<sup>\*</sup>

高橋 寿郎

昆虫採集を楽しみながらやるのは自分の“奥サン”と一緒に行くのが一番良いと確か馬場金太郎博士が書いておられたと思う。私もこのことを痛感している一人である。年令的にいつ“惚気”とも受け取れないと考えるのでこのことについて少々書いて見たい。

ただ一つの目的に対しての共同調査とか同好会の例会とかいったものでなく飽く迄も平常時ににおける昆虫採集のあり方の場合を対象にして申し上げていることを、あらかじめ承知しておいて頂きたい。

1. 同好の方と昆虫採集に行くことは勿論楽しい、また色々啓蒙されることも多いので良いことだと思ふ。がやはり珍品を同行の方が眼の前で採集されたりするといささか心おだやかならずといった気分になることは否定出来ない。

2. 調査目的が異なる方の同行は採集ベースが異なるので不便なことが多い。

3. 若い人達との同行はやはり体力的に全くベースが合わない。

以上の点からして“クタビレタ”といつても自分勝手な行動はとれない。だから自分のみならず相手に対しても不愉快な印象を与えたりして折角のお付合に“ヒビ”が入つたりしても困る。

そこで自分の“奥サン”と一緒に行く場合の利点をのべて見たい。

1. 採集に行つて一日中一言も喋らなくてもそこは以心伝心全然問題がおこらない、だまつてついてきてくれる(気疲れが全くない)。

2. “クタビレタ”と云つても話が簡単、どのようにでも行動の応用動作はいとたやすい。

3. 私の場合相手が若い、肉体的には向うがウント上である、だから荷物は全部お持ち頂いている。こちらは採集のみに専念出来る。その上眼がいいので小さい虫を良く見付けてくれる(一々眼鏡をはずす手間が省ける)。

4. さらに“ついて行くだけでは退屈だろう眼につくものは手当り次第採集しておいてくれ”と捕虫網と殺虫管を渡しておく。これで結構珍品がとれるのだから驚きである。私の採集は2人分である。採集品は文句なく頂けるわけである。

どうも手前勝手な利点をのべたようである(本人が聞いたらさぞ立腹することであろう。そこはそれ“これは珍品だ、へーこんなものいたのかい、たいしたもんだ”と適当におだてておく、得意になつて手助をして貰える)。

\* 兵庫県産甲虫相資料、'48.

私もお蔭で昨年から子供の手が離れた。そこで夫婦での昆虫採集というのを昨年始めからやつている。どうしても私は多年の経験(?)から採集が積着である。大体この辺にはこのようなものがあるといった感じでの採集をやる。ところが相手の方には「君は素人だから目につくものは出来るだけ採集しておいてくれ」との指示がしてありそれに基いてスローペースであるが丹念に採集してくれる。普通種も多いのであるが中に思いがけないものがとれていることになる。そこでマダムとの協同採集の結果をここに披露しておきたい。

#### 相生市三瀨山

今年は相生市の三瀨山の調査を集中的にやつている。この山は標高が低いので自然破壊は余りないとはいいなながらも山も浅く個体数が大変少いのであるが種類は可成り豊富なようである。

6月1日の採集行では「今日はキレイナ虫がとれましたよ」といながら差し出された殺虫管の中にはアオマダラタマムシが入っている。「ヒゲの長い虫もとれていますよ」驚いたシロスジドウボソカミキリがとれている。この種は県下では西宮市生瀬での記録があるのみで珍しい種と思われる。

このような調子で調査の方もなかなか助かった。今年は長梅雨でありその上7月始めは集中豪雨があり、相生・赤穂地区は7月6日に大きな被害を受けたことが新聞、テレビで報道された(思い出します昭和10年7月5日は神戸地方の大水害で丁度期末試験の最中ズブぬれになつて会下山を越して帰宅した所が避難の人達がわが家にも来ており数日間テンヤワンヤであつたことが)。

7月20日採集に行つて驚いた。三瀨山も大きな被害を受けていた。登山道の橋は皆流されている。道は中央がえぐられている(可成りの深さで)。水が中央を流れたのであろう石が無暗と多く道路上に転つている。右側の山は前から石の多い所であつたが之が流れてきたのであろう。割合自然破壊が少い山と思われたが一部頂上をきれいに伐採した所があつたのを見ている(可成り広範囲で)。やはり雨が降ると伐採地は一度にくづれてしまうのであろう。お蔭で自動車を登山道に乗り入れることは当分出来そうにないので採集には好都合であるがこう足場が悪くは困る、はたして之をきれいにするような措置が早急にとれるのだろうか? まづこれで今年は8回4-7月にかけて調査が出来た。1969年に1回、1973年に3回とこれまでに5回行つているので合計13回行つている。そろそろまとめてもよいと考えている。未整理が多いのでまだこの山の虫相は云々出来ないが種類数は結構多いようであるし、小形種の面白いものがいそうである。

7月20日の採集行の帰途登山口付近の道端でマダムが「これはきれいな虫ですよ」と差し出したのがクロオビツツハムシ(*Smaragdina nigrifrons* Hope)である。兵庫県には今迄記録がなかつた種である。早速その付近を探す。カヤの葉にとまつている。全部で7exs., 採集, 1組は交尾姿勢のものがいた。こんな中型の美しいハムシが今迄県下で記録がなかつたとは

驚きである。兵庫県のみならず木元博士によつて記録されたツシマアシナガハムシが同博士の手  
ヒメウスイロハムシ (*Monolepta nojiriensis* Nakane) のシノニムとなつて消え  
ばかりなので (Kontyu, 42・2:148, 1974) この種が加わつて総数において変化なしとい  
た所である。

三渡山の甲虫類で一応はつきりしたもので目星しいものを次にかかしておく (小型種はほとん  
ど含んでいない。) (その後奥谷先生とお会いした時一緒に来ておられた県自然課の戸田戦介氏から三  
渡山の頂上付近がゴルフ場になるということをお聞きした。成程そう云われれば山をけづりつつい  
るのはその第一歩なのであつたのだ。よい時に調査をしておいた。ゴルフ場は頂上下の部落・池周  
辺を考えているらしい。はたしてどのように変わるか自然状態の中でのゴルフ場であつてほしい)。

エグリゴミムシ (1 ex., 3-V-1954, 朽木の中), クロカタバロオサムシ (1 ex.,  
18-V-1974, 歩行中) は少いようである。オオオサムシ、マヤサンオサムシ、ヤコンオサ  
ムシ、マイマイカブリの4種は割合に道路上を歩いているのに出会うことが多い。クワガタ  
ムシ類は一般に少いようでコクワガタ、スジクワガタがとれている位であを。また牛・馬がいないの  
で糞虫類の採集がほとんど出来ていない (野生の兎がいて時折姿を見せるし糞も見られる)。セン  
テコガネ、オオセンテコガネ (飛翔中のもの採集) がいる。ヒラタチャイロコガネが5月には比較  
的多くいる、この種は県下では神戸市円生山と氷上郡柏原で得られている。アオマダラタマムシ  
(1 ex., 20-V-1974), ルイスヒラタチビタマムシ (1 ex., 20-V-1973) が  
いる。溪流ぞいにはゲンジボタルが飛んでいる。アカヘリテントウ (1 ex., 6-V-1973)  
は県下で柏原の記録があるのみで珍しい種である。アカハムシダマシが大変多い。本州中部山岳地  
帯に分布とされているアイロカミキリモドキが得られた (1 ex., 8-VI-1974)。ホソク  
ロクチキムシ、モンキナガクチキムシ (多い), マルモンニセハナノミ、アヤモンニセハナノミ、  
ヨツモンヒメナガクチキムシ、ミヤケヒメナガクチキムシ等々がいる。特定の朽木ではあるがテ  
オキノコムシが数種群棲している (種名省略)。アザミクビボソハムシは大変多い、クロオビツツ  
ハムシは前に記したように県下初記録である。シロオビアラゲハムシは大変多いのであるがウスゲ  
ハムシは少い。コフキササルハムシも割合いる。ヒラタハムシは群棲している。サンゴジュケブカ  
ハムシも多い。イチモンジハムシがいるがこの種は県下の海岸線ぞいに分布している種のように今  
の所北部からの記録がない種である。セダカカメノコハムシも割合いる。

#### 加西市畑

6月17日の朝“知人が中国縦貫道路ぞいの加西市にあるサービスエリアにあるレストランに勤  
め、招待を受けたので一寸行ってきますよ”とマダムは数人の友達と出掛けた。

中国縦貫道はやつと兵庫県の福崎迄開通したのが6月始めである。しかも途中宝塚は人民パワー

の前に未開通部分を残したままの開通と大変変則的なものであつた。

所謂播磨平野の部分にあたる所を横断するような恰好で大部分が平野部ならびに低い丘陵地帯で、植相も松、杉が主体のあまり昆虫相にめぐまれた地帯ではなさそうであり期待も出来ないが殺虫管だけはお持ち頂いた(中国縦貫道は排水工事が不充分の箇所が多いので大惨事が起るかも知れないと物騒な噂がある)。

“こんな虫がいましたよ”とその夜持つて帰つてきたのを見て驚いた、多くのヨツボシカミキリの中にトラハナムグリ 1 ex., とタカサゴシロカミキリ 3 ex., が入っている。タカサゴシロカミキリは戦前鳥原で採集して以来のものである。”とに角レストランは終夜営業でライトが一晩中ついているものだから虫が物凄く来るそうですよ。(尤もこのトラハナムグリはバス停のそばの草叢で、タカサゴシロカミキリはレストランの部屋の外にあるベランダに来ていたとのこと)。これは大変だ調べて見なくちゃならない。そしてとうとう今年はこの地に何回か足をはこんだ(詳しくは6月23日、29日、7月13日、27日の4回一〇印は夜間採集、その他は早朝訪問の採集)。日中なら平凡な丘陵地帯で採集してもたいしたことにはないような地であるが夜間採集をして見ると結構色々なものがやつてくる。ゴミムシ、ゲンゴロウ、ミズスマシ、ガムシの仲間は数多くやつてきている。付近に水田、池が多い関係であろう。ヘイケボタルも割合いる。新聞紙上に掲載されたようにカブトムシが可成り多い(通行中のトラックにカブトムシが飛び込んで危いというような記事)。ミヤマクワガタ、コクワガタ、スジクワガタ等々もいる。キイロカミキリモドキ、ノコギリカミキリ、クロカミキリ、ヨツボシカミキリ、スジコガネはとに角多い。アオスジカミキリも結構来ている。クリイロコガネ(1♂, 23-VI-1974, 1♂, 29-VI-1974)が得られた。この種も県下で個体数の多い仲間でない。ヒゲコガネの1♂が得られたのはうれしかった(27-VII-1974)現在では県下での珍品である。

#### その他

最後に1974年度の他の話題を若干ご披露しておく。本年は可成り多くのキベリハムシが出現したようである。山手短大の田中梓先生のお便りにも学園の裏山で多数出現していたとのこと。神戸生物クラブ鑑定会への小学生の採集品にも持参されていたし中には“キベリハムシを飼育したいと思うが方法を教えてくれ”という一般の方がやつてきたりした。

鳥原でも道路傍で多く見られたし従来の産地以外の地区でも割合見られた。分布を広げて行くことは歓迎である。

前記生物クラブ鑑定会に持参された標本は蜻蛉、蝶が多かつた従つて特に珍しいものがあるように思はなかつた。

垂水在住の中学生がコカブトムシ2♂持参(7月採集)、電燈に割合飛来すると自宅にもまだ他

に標本をもっているとのこと。アオドウガネも多くいると述べていた。

また少学生が神戸中央市場で採集したといつてオオシロカミキリ18(1-VI-1974)をもってきた。地方から荷物について来たのか或は市場付近にいるのかさだかでないが(奥谷先生の御教示によると六甲山にはいる由)。

尙本年は上記以外に多可郡千峰(2回)、赤穂市天和(恋ガ浜)(海浜性甲虫の調査・2回)等の調査をして新知見も得たのであるが余り長くなるので稿を改めて報告したい。

以上駄文で貴重な紙面を汚したことをお詫びする。

(10-X-1974)

## <短 報>

### ヒメハルゼミの新産地

奥 谷 禎 一

今年(1974)の調査によつて、兵庫県におけるヒメハルゼミの新産地2ヶ所発見されたので報告する。

#### 1. 加西市河内町普光寺

発見者 市教委井上博明氏

この地域は普光寺自然環境保護地区83.4haに含まれる特別保護地区9.8haのコジイ・アラカンに優占される寺有林である。約10年位前から変つたセミがいるといわれてきたが、正体がわからなかつた。井上氏の採集した18で(16-VII-74)、確認でき、筆者も現地を視察した。

#### 2. 猪名川町木津天沢寺境内約1haの天然林

発見者 矢野信道氏

筆者はまだ現地をおとずれていないが、矢野氏は先年淡路島諭鶴羽山で鳴声を充分知っているの間違いない。やはり本境内もシイを主体とするものとのことである。

今まで知られた産地は、但馬で豊岡市絹巻神社、城崎温泉附近と淡路島であるので、内陸部での発見は今後本種の分布論を考える上に大きな意味をもっている。なお岡山県では倉敷昆虫同好会の諸兄の努力にも拘らず、発見されていないことは開発との関連で大変興味あることである。